

ヒトツオトシガ

手をはなし拍手しながら八歩さがり、元の位置に戻る。

オホクナル

左手の指を順に折り、右手の人さし指をそばに持つていつて両手軽く動かしながらかぞへる様子をする。

ウレシイナ

右足から圓周に沿つて體は中心をむけたまゝ右に横に歩く。それと同時に左手を體の側面から頭上を通して右肩上のところで右手ミ合はせ最後に拍手一回行ふ。

ウレシイナ

前のウレシイナと同じ動作を左に行ふ。

談話

第十三週

文福茶釜

動物が化けて人間の動作をする話は随分多い。話を作る

二 オシャウケワツガクルト

一番ミ同じ

タコヲアゲタリ

両手でたこの糸をしつかり持ちこれをひきながら八歩後にさがり元の圓周上の位置に戻る。顔は上の風の方向にむけて。

スゴロケシタリ

自分の位置に立つたまゝ兩掌を少しふくらませて合はせ中に賽を入れたミしてかるく右、左、右、左ミふる。

ウレシイナウレシイナ

一番ミ同じ。

上にも誠に易々ミして事が運べるので、よく昔から狐や狸が化けた話があるが、いつ迄續いてゆくものかミ思はれる。多くは化けて人を欺したり、悪事をしたりするが、

文福茶釜の狸はその點誠に善良でしかも義侠に富み愛すべき狸である。かちく、山の狸は悪の一貫でもあるし、その報いが餘りにも残酷で、誠に話にくい。それに比べていゝ化け方であるから、陳腐の厭ひがあるが、かうした日本昔話を次々傳へつゞけてゆくのも一つのつぎめであらう。

第十四週

ロビンソン漂流記

全部を五回に分けて、この週は始めの三回位を話す。この時期になれば、昨日きいた話、一昨日きいた話は覚えて

観 察

第十三週

からすうり

木の葉が殆ど散り切つた頃、やぶの中等に赤い提灯の様に下つてゐるからすうりは何だかファンタスティックな、

野趣あるものだ。都會の子さもは知らないことが多い。私達

るよう。みんながみんな筋道りは把握してゐないにしても、次の話をきいて、突然の感を受けるような事は無い。然し、さうは思つても、話す方から云へば順序として、昨日やめておいた處を再び繰り返して、そこから始めることだけは是非しなければならぬ。

この長い話の中で不自然なところ、誇張しすぎた處が一點も無いこの話は、その堅實性が却つて興味を惹くらしく、この話をしたあゝ幾度かせがまれる。その度にくり返して話してゐる。

は氣をつけて斯うした野のものを集めて親しませ度い。これの塗り繪をさせる時のお手本は實際のものを用ひ度いものである。名の如く葫蘆科の植物である。

冬眠中の蟲

急に冬眠中の蟲を見せ様として土の中をひつくり返して